

雷 神 I 遺 跡

1996

財団法人 水沢市埋蔵文化財調査センター

— 序 文 —

平成7年度における水沢市埋蔵文化財調査センターの遺跡発掘調査結果につきまして報告申し上げます。

当センター発足2年目をむかえ、昨年同様の視点にたち、単なる発掘調査に終わるだけでなく、それらの文化財の秘める貴重な意義について理解し、保護しようとする心を育むための啓発活動として、出土遺物の展示公開、考古学研修講座や考古学教室の開催、講演会（今年度は三内丸山遺跡と平泉柳之御所跡についてと、胆沢城跡発掘40年を振り返ってなど）を実施致してまいりました。

現在、水沢市内には270か所の埋蔵文化財の遺跡が確認されております。今年度は更に9か所を発掘調査致しました（東大畑遺跡、半入屋敷遺跡、林前Ⅰ遺跡2か所、龍ヶ馬場Ⅱ遺跡、雷神Ⅰ遺跡、杉の堂遺跡、仙人西遺跡、胆沢城跡）。胆沢城跡を除き8か所の調査は、県立病院や国道バイパス工事に伴う開発計画、及び住宅建設のためのものであります。従来の考え方「まずは文化財の保護」と、現在の考え方「もっと積極的に活用し、整備していくことが必要である」という考え方の変化の狭間にあって、発掘調査の任務にあたる私どもは、消えゆく遺跡の記録を後世に伝える大事な責務を課せられていることを深く自覚しなければなりません。当然のことですがこのことを所員一同心して報告書作成にあたりました。

また、各遺跡の発掘状況や結果については、その都度、所報「鎮守府胆沢城」や所内に図版、写真など掲示したり遺物を展示してお目にかかけました。本報告書に掲載されている内容はそれらのものを更に詳細に記録保存したものであります。

終わりになりますが、水沢市の埋蔵文化財保護行政の推進にあたりましては、文化庁、岩手県教育委員会文化課、県埋蔵文化財センターはじめ多くの方々のご指導、ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

尚、今後とも一層の関係各位のご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

平成8年3月25日

水沢市埋蔵文化財調査センター
所長 及川由己

【 例 言 】

1. 本書は、岩手県水沢市真城字中道23ほかにある雷神 I 遺跡の発掘調査概報である。
2. 調査は宅地造成工事に伴う事前調査として実施されたものであり、水沢市の委託により、水沢市教育委員会の指導のもとに（財）水沢市文化振興財団水沢市埋蔵文化財調査センターが行った。
3. 雷神 I 遺跡の調査対象面積は5448㎡であり、うち調査実施面積は580㎡である。
4. 発掘調査期間は、平成7年10月14日～平成7年10月27日、以後、平成8年3月31日まで室内整理作業を行った。
5. 発掘調査は池田明朗が担当した。
6. 本書の作成は、遺構、遺物の実測及びトレースは調査担当者のほかに、青木綾子、渡辺弘子が行い、写真、執筆、編集は池田が行った。
7. 本書に掲載の地形図は、水沢市都市計画図（縮尺2,500分の1）を原寸のまま使用し、スケールを付していない。また、断面図のレベルはすべて75.7mで、発掘規準線は磁北に対しN15°06'Eである。
8. 本書で使用する遺構表示略記号は、下記による。
SB：掘立柱建物 SD：溝 SK：土坑

【 目 次 】

序 文	
例 言	
I. 遺跡の位置と環境	1
II. 遺 構	2
III. 遺 物	5

【 図 版 目 次 】

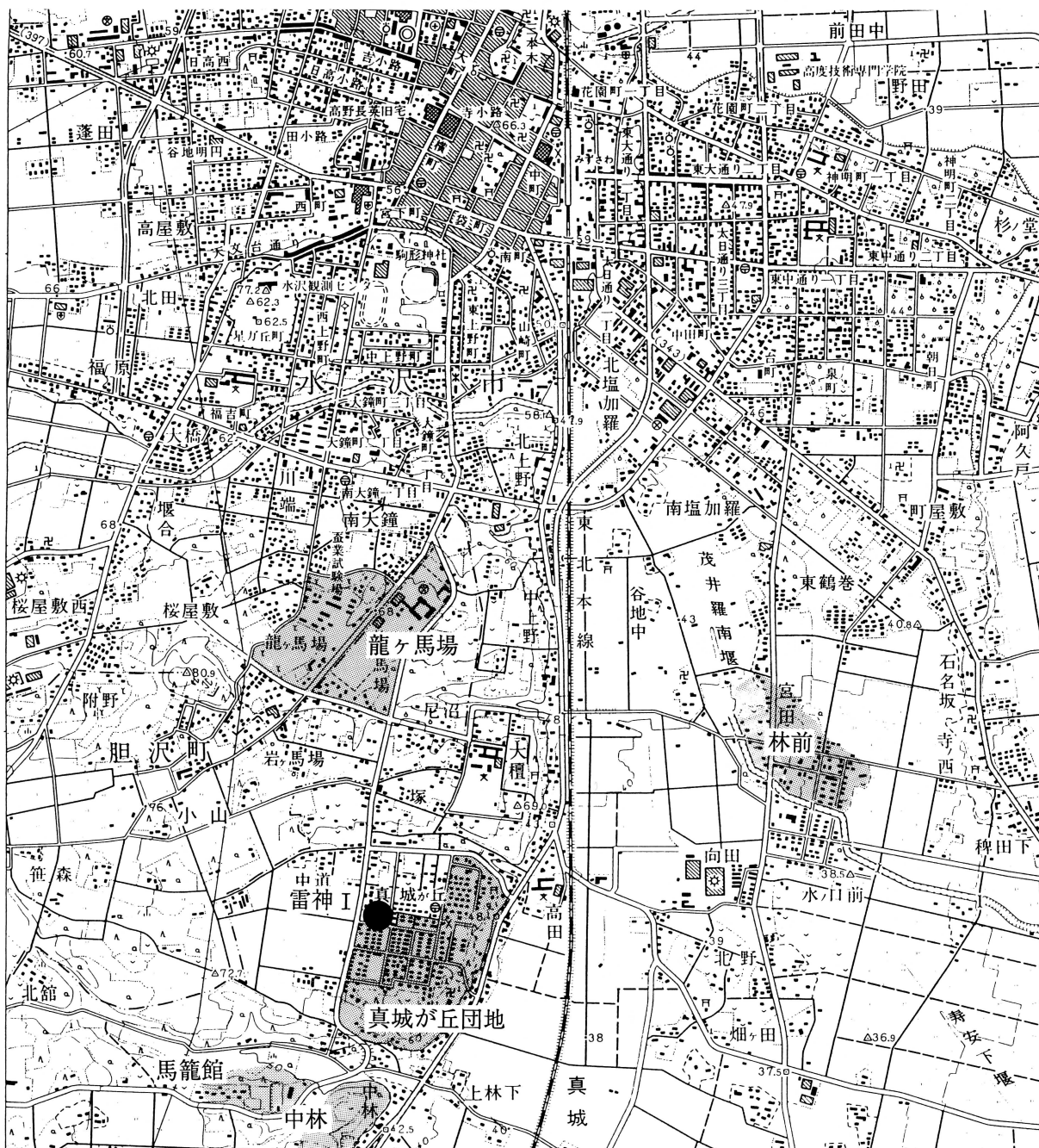
図版 1	発掘区全景	図版 3	掘立柱建物SB13
図版 2	発掘区全景	土坑跡SK07
.....	溝跡SD01・02・03・09	図版 4	土坑跡SK06・14
		出土遺物

I. 遺跡の位置と環境

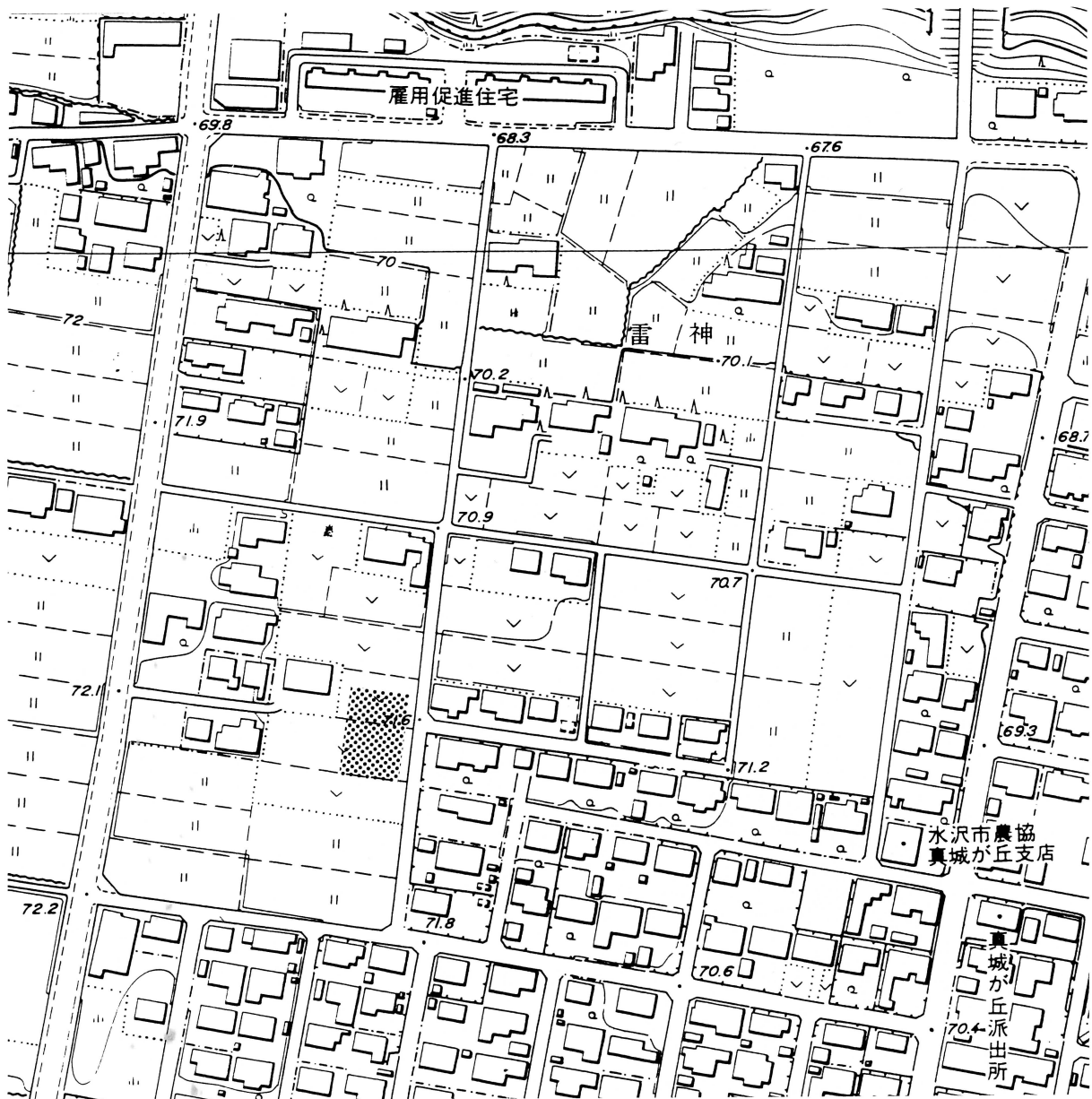
雷神 I 遺跡は水沢市街地から南約3.5 km、胆沢扇状地の中位面である胆沢段丘の東辺部にある。一帯は平坦面で、西方に水田が広がる以外は住宅が密集する。

遺跡の北縁部は堤尻川が東流し、北北東約 1 km に平安時代集落の龍ヶ馬場^(註1)がある。遺跡の南には東流する大深沢川をはさみ、平安時代の集落遺跡中林遺跡^(註2)がある。また、遺跡の西南約 1 km には小谷をはさんで中世城館跡の馬籠館跡^(註3)がある。

遺跡の東には平安時代集落の真城が丘団地^(註4)、胆沢段丘崖下の東には、扇状地低位面である水沢段丘上位面^(註5)が広がり、微高地を中心平安時代集落の林前遺跡などがある。現状は畑である。



第1図 遺跡位置図 (1 : 25,000)



第2図 遺跡周辺地形図（1：2,500）発掘区アミ部分

Ⅱ. 遺 構

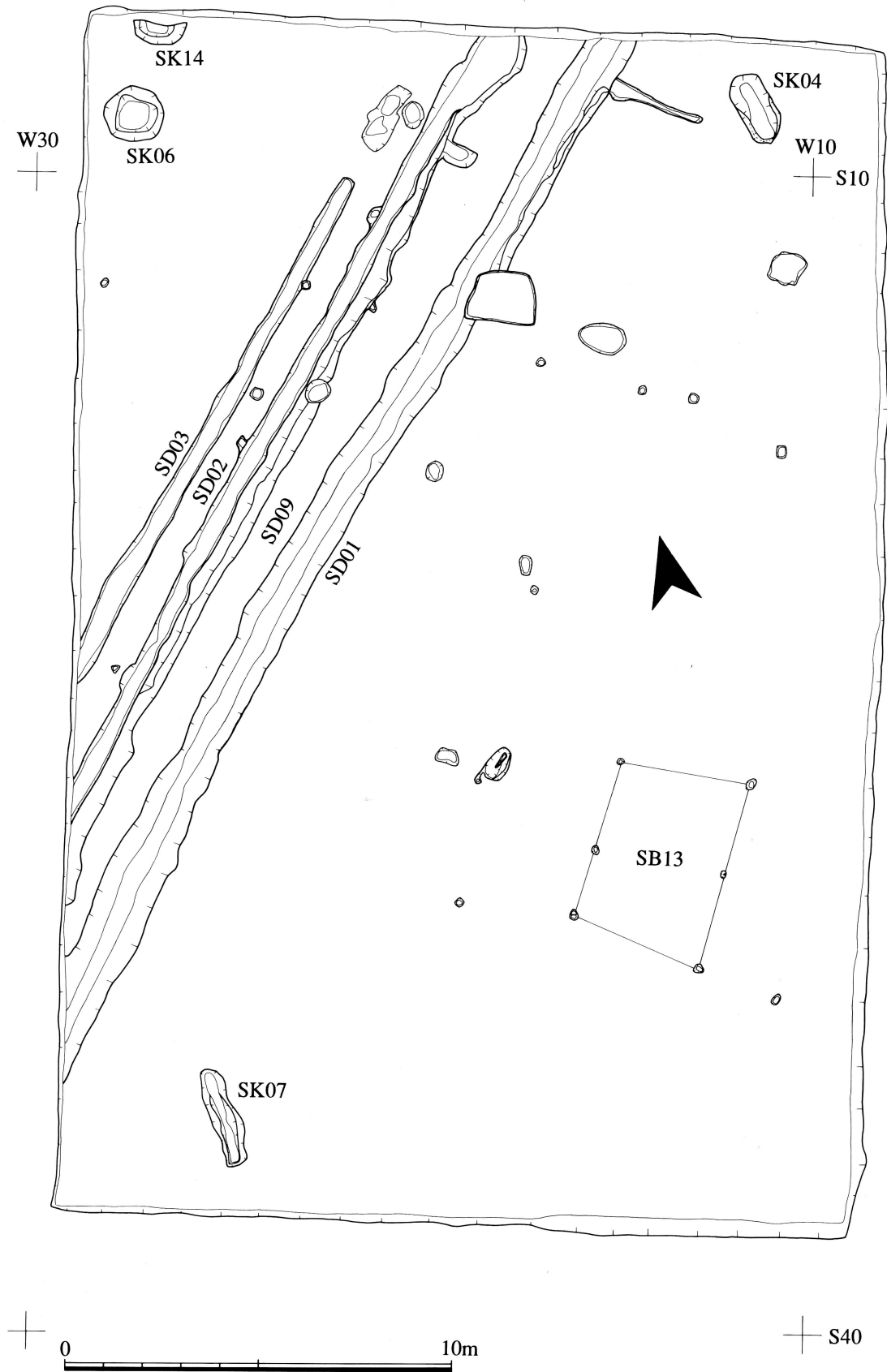
発掘調査で発見した遺構には、掘立柱建物1棟、溝跡4条、土坑跡4基、ピット多数がある（第3図 図版1～6）。以下、遺構について記述する。

掘立柱建物SB13（第3図 図版1・3）

調査区の南東で検出された南北2間（4.93m）×東西1間（3.36m）の建物である。建物方位は発掘基準線に対し桁行が東側柱でN15°05′E、梁行が北側柱でW10°00′N傾く。南妻の東西にはほぼ直線上にピットが配されるが、ここで2間×1間の建物跡とする。

柱間寸法は桁行が東側柱で北から2.41m、2.52m、梁行が北側柱で3.36mである。

柱穴は直径0.2m前後の円形で、深さは0.1m前後である。柱痕跡はなく、建て替えの重複関係は認められない。柱穴埋土は、黒色に若干黄褐色シルト粒を含み、遺物はない。



第3図 雷神 I 遺跡遺構配置図

溝跡SD01・02・03・09 (第3・4図 図版1・2)

調査区の南西部から北部にかけて検出された溝跡で、いずれも南西端部は調査区外に延びる。但し北端部が調査区外に延びるのはSD01・02である。

溝跡SD01は溝幅1.0~1.5m、深さ0.25mあり、中央の北寄りを現代の攪乱によって破壊されている。底部は平坦で丁寧に掘削され、断面は緩いU字形を呈している。埋土は1、2層が黒色土、3、4層が暗褐色土で、2層に黄褐色土粒、3層に黒色土と黄褐色シルトブロックが混じる。遺物は1・3層の境より出土した石器、須恵器片がある。

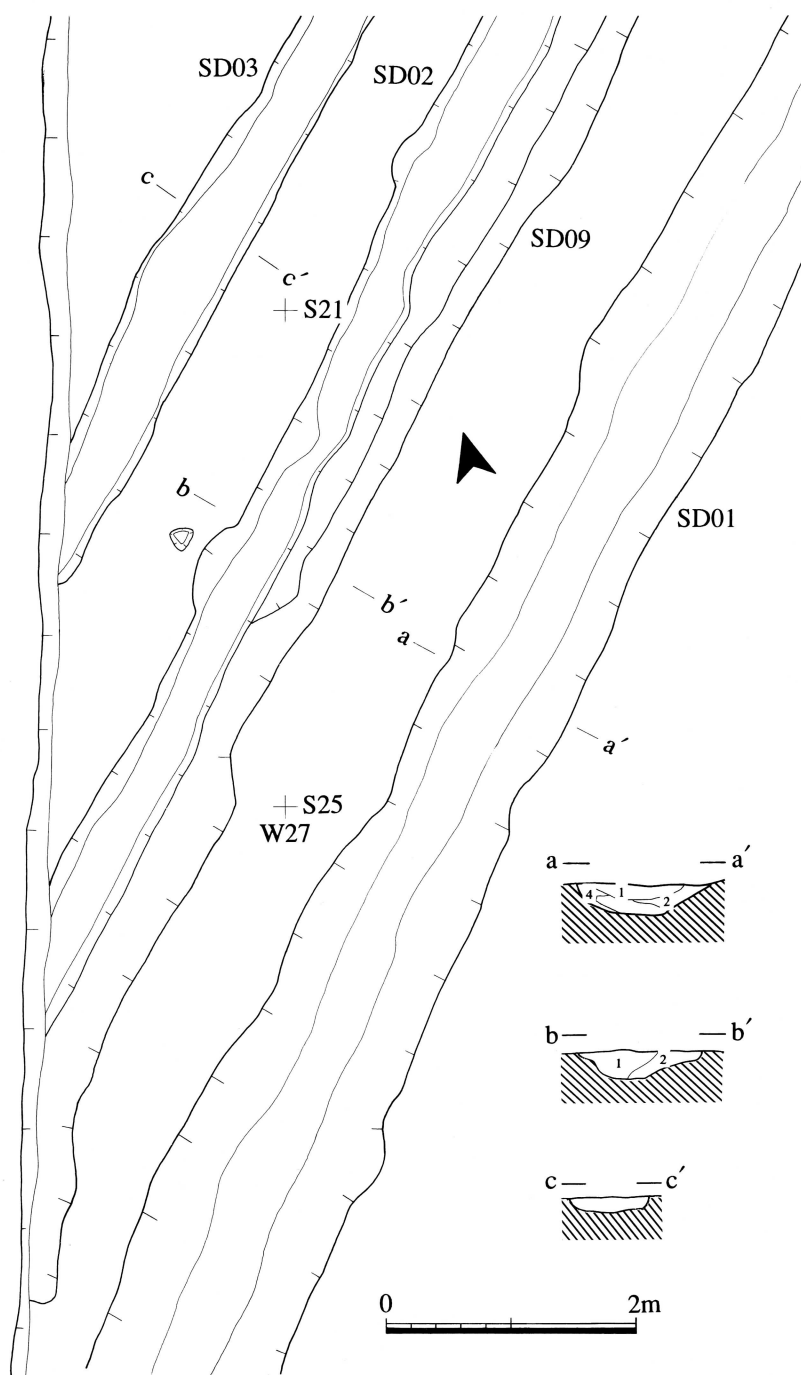
溝跡SD02は溝幅0.6m、深さ0.2mあり、SD09、ピットを破壊する。底部は若干窪みがあるが平坦に掘削され、断面は緩やかに立ち上がり外反する。埋土は黒褐色土単層で部分的に黄褐色シルトブロックが混じる。遺物は埋土中程から出土した回転糸切り無調整の須恵器杯底部片がある。

溝跡SD03は溝幅0.6m、深さ0.1mで、重複するピットに破壊される。底部は窪みが多く不安定で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は黒褐色土単層で部分的に黄褐色シルトブロックが混じる。遺物はない。

溝跡SD09は深さ0.2mあり、SD02に破壊される。重複するピットのうち、南側のピットに破壊され、北側のピットを破壊する。底部は窪みが多く、壁は外反しながら立ち上がる。埋土は全体に黄褐色シルト粒が混じる黒褐色土単層で、遺物はない。

土坑跡SK04 (第3・5図 図版1・2)

調査区の北東隅で検出された1.9m×0.9m、深さ0.8mの南北に長い楕円形土坑である。遺構の北端は現代の攪乱



第4図 溝跡SD01・02・03・09

によって破壊される。底部は平坦で丁寧に掘削され、南側には張り出しがある。壁の南側は急激に立ち上がるが、北側は外傾しながら立ち上がる。埋土は1層が黒色土、2層が全体に黄褐色シルト粒の混じる黒褐色土、3層が全体に黄褐色シルト大小ブロックの混じる黒褐色土で、遺物はない。

土坑跡SK06 (第3図 図版4)

調査区は北西隅で検出された1.5m×1.4m、深さ0.6mの円形土坑である。壁、底部ともに丁寧に掘削され、壁は底部からほぼ垂直に立ち上がり上端で緩く外反する。埋土は1層が草根の混じる黒褐色土、2層が全体に黄褐色シルト粒の混じる黒褐色土、3層が若干黄褐色シルト粒の混じる黒褐色土、4層が褐色土である。遺物はない。

土坑跡SK07 (第3・6図 図版3)

調査区の南西隅で検出された2.6m×0.7m、深さ0.5mの南北に長い不整長円形土坑である。底部は丁寧に細く掘り込まれ、緩いU字形を呈する。壁は底部よりほぼ垂直に立ち上がり上端で緩く外反する。埋土は1層が黒褐色土、2層が黄褐色シルトブロックの混じる黒褐色土、3層が黒色土、4層が黄褐色シルト粒混じりの黒褐色土である。遺物はない。

土坑跡SK14 (第3図 図版4)

調査区北西端より検出された東西1.3m、深さ0.7mの土坑である。壁、底部ともに丁寧に掘削され、壁は底部より内湾気味に立ち上がり上端で外反する。埋土は上部に草根が混じる以外、ほぼ黒褐色土の単層である。遺物はない。

ピット群 (第3図)

調査区の北半より13個検出された。SD09を壊す直径0.6mのピット以外いずれも直径0.2~0.3mのピットで、深さは0.1cm前後である。出土遺物はない。

Ⅲ. 遺物

発掘調査で出土した遺物には、石器1点、須恵器2点がある。以下遺構ごとに記述する。

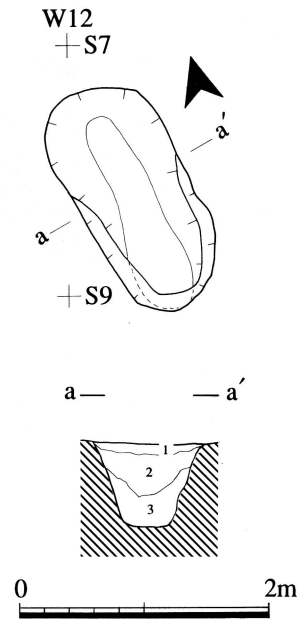
溝跡SD01出土遺物 (第7図 図版4)

1層と3層の境から筥状石器と須恵器大甕の体部片が出土している。筥状石器は、長さ8.1cm、幅4.3cm、厚さ2.1cmあり、石質は安山岩である。^(註6) 片面は石の表皮部を残している。

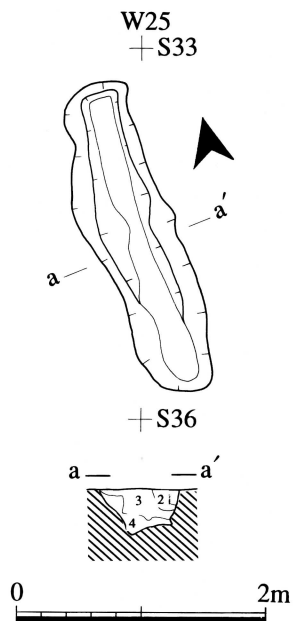
須恵器片は外面に平行叩き目文、内面は上半部に青海波文を当てている。焼成は堅緻で内外面ともに灰色を呈する。胎土に黒色微粒、白色微粒が混じる。器壁は1cm前後の厚さがある。

溝跡SD02出土遺物 (図版4)

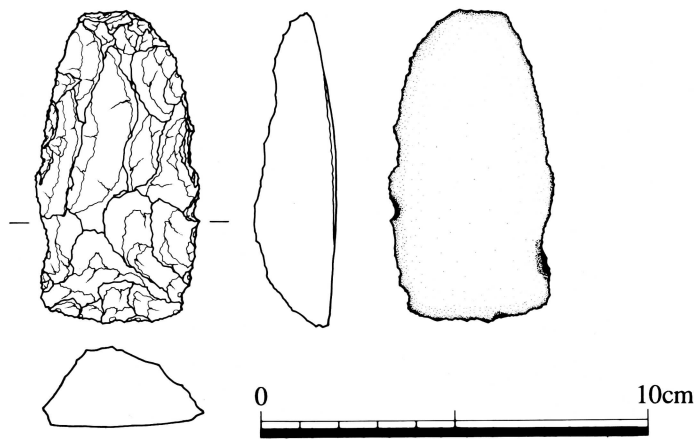
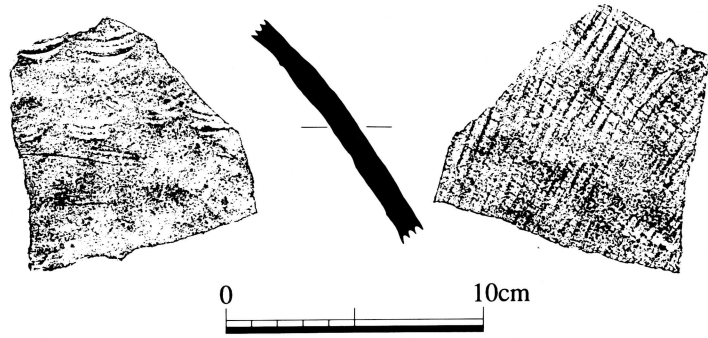
埋土の中程から須恵器杯底部片が出土している。回転糸切り無調整で、焼成は堅緻、色調は橙色を示す。



第5図 土坑跡SK04



第6図 土坑跡SK07



第7図 雷神Ⅰ遺跡出土遺物実測図

-
- 註1 『水沢市龍ヶ馬場遺跡現地説明会資料』（助岩手県埋蔵文化財センター、1994年）
伊藤博幸『龍ヶ馬場Ⅱ遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第5集（助水沢市埋蔵文化財調査センター、1995年）
- 註2 伊藤博幸・佐久間賢『水沢遺跡群範囲確認調査 — 平成2年度発掘調査概報 —』水沢市文化財報告書第22集（水沢市教育委員会、1991年）
- 註3 小林晋一「4、城館」（『水沢市史2（中世）』、1976年）
- 註4 『上野遺跡現地説明会資料』（水沢市教育委員会、1972年）
- 註5 新田賢・伊藤博幸『林前遺跡 — 区画整理に伴う範囲確認調査 —』水沢市文化財報告書第3集（水沢市教育委員会、1979年）
- 註6 石質の鑑定には土井宣夫氏のご教示を得た。記して謝意を表す。

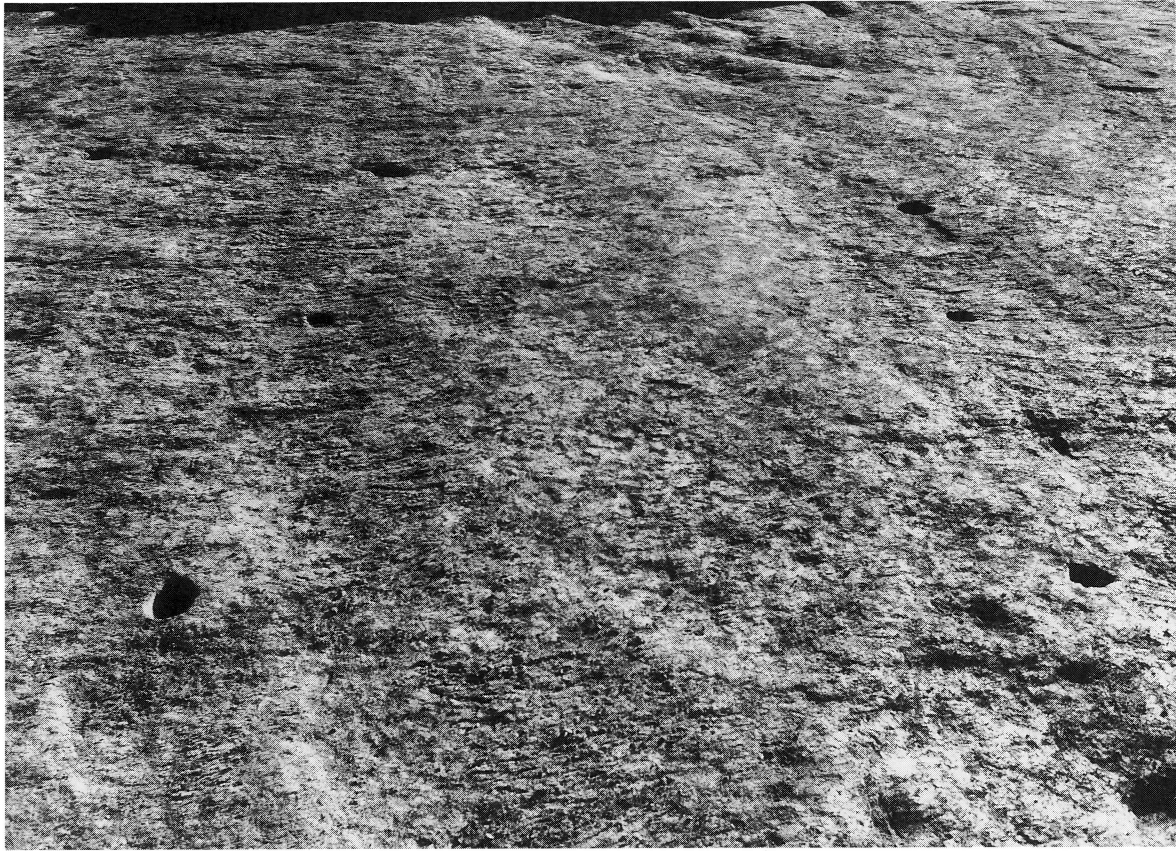
写 真 图 版



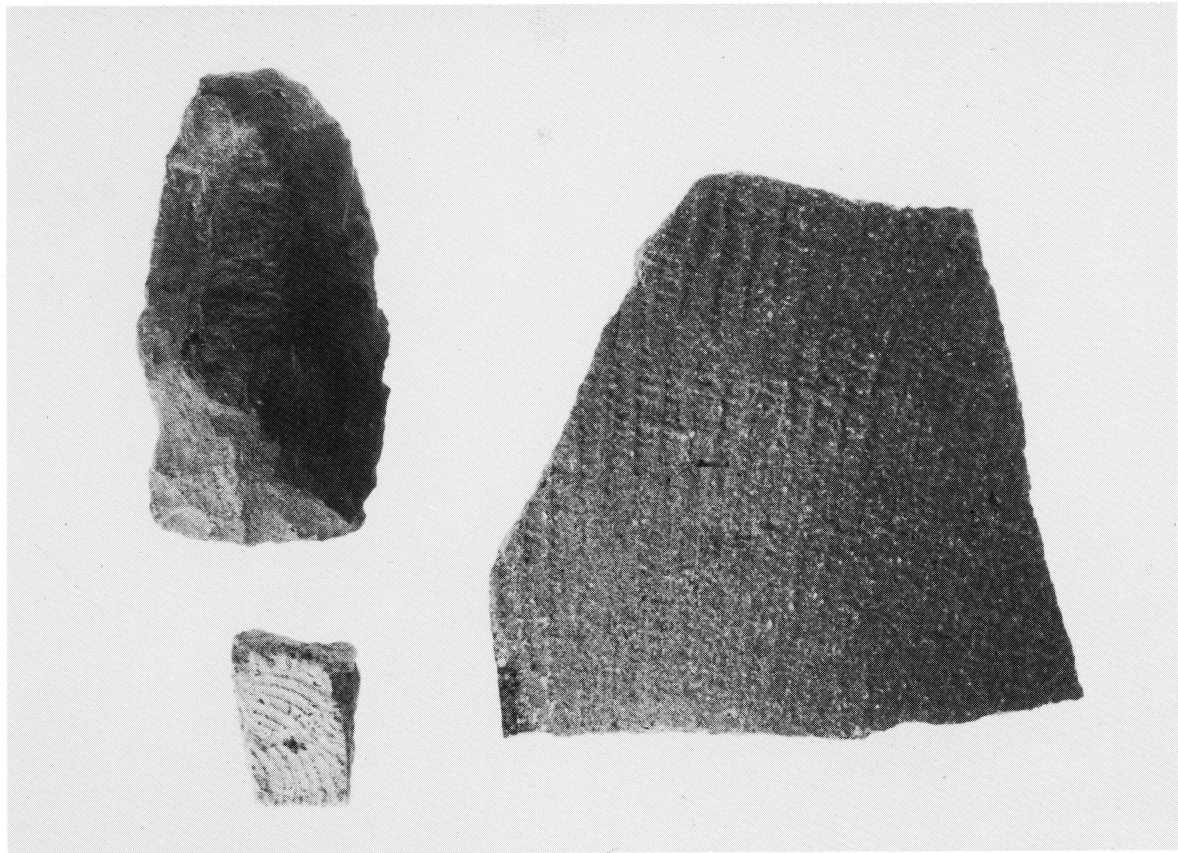
图版1 雷神 I 遺跡発掘区全景



図版 2 上 雷神 I 遺跡発掘区全景 (北東より)
下 溝跡SD01・02・03・09 (北東より)



図版3 上 掘立柱建物跡SB13 (北より)
下 土坑跡SK07 (北より)



図版 4 上 土坑跡SK06・14（南西より）
下 雷神 I 遺跡出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	らいじんいち いせき							
書名	雷神 I 遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	池田 明 朗							
編集機関	財団法人 水沢市文化振興財団 水沢市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒023 岩手県水沢市佐倉河字九蔵田96-1 TEL 0197-22-4400							
発行年月日	1996年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査時間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
らいじんいち いせき 雷神 I 遺跡	いわてけんみずさわし 岩手県水沢市 しんじょうあぎなみち 真城字中道23ほか	03204	NE26-2269	39度	141度	19951014	580	宅地造成工事に伴う事前調査
				6分 40秒	8分 30秒	19951027		
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
らいじんいち いせき 雷神 I 遺跡	集 落 跡	縄文時代 平安時代	掘立柱建物 土坑 溝	須恵器 石器				

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第6集

雷神 I 遺跡

平成8年3月31日発行

編集／発行

財団法人 水沢市文化振興財団

水沢市埋蔵文化財調査センター

〒023水沢市佐倉河字九蔵田96-1

電話 0197-22-4400

FAX 0197-22-4600

印刷 北日本印刷株式会社

電話 0197-26-4190

FAX 0197-26-4192